下野市立国分寺小学校

１　学校課題

自分の考えをもち、広げ深める児童の育成（第１年次）
―国語科を中心に、自ら考え表現する力を伸ばす指導方法の工夫―

２　研究計画

（１）国語を中心とする授業研究会
・　Ｓ＆Ｕコラボ事業　３回、共同訪問　１回（2 名）、校内授業研究　２回）
・　全教員の参加（共同訪問、初任者正式訪問を除く）。
　①　教科を国語の１教科に絞り、研究した成果や課題を次の授業研究につなげるように努める。
　②　研究内容は、３（１）①～④とする。ただし、授業研究における１年次は３（１）①②を中心に進める。その際、その効果を見取ることが必須となるため３（２）も同時に進めていくこととする。また、３（１）①の工夫の一つとして③を行うことも十分に考えられる。
　③　学習指導案は、市教育研究所から示された様式を基に作成する。
（２）授業交流会（校内授業研究）
・　学級担任や教科担当者が、原則全員一回研究授業を行う。
・　ブロックの教師＋有志の参加（自主交流会はこの限りではない）。
・　一人一授業の日時は、原則月曜５校時。
・　有志による授業は随時声かけ。
　①　対外的な研究授業の授業者以外が、自分の授業を公開する（対外的な研究授業の前時や本時、後時であると、協働で授業設計しやすいが、全く別単元でも可）。
　②　研究内容は、２（１）②と同様。
　③　指導案は、本時のねらいと授業の流れ（略案）を作成する。
　④　教科は問わない（国語が望ましい）。
　⑤　初任者研修の正式訪問は、一授業にカウントする。
（３）常時活動研究（常時活動部　各学年１名）
　①　授業内容と関連させ、学力の定着に効果的な家庭学習方法を、文献や本校職員の実践から集め、よりよい方法を検討し提案する。
　②　効果的な朝の学習や補充的学習の方法、学習に遅れのある児童を引き上げる手立てを、文献や本校職員の実践から集め、よりよい方法を検討し提案する。
　③　効果的な家庭学習や作文学習の方法を、検討し提案する。
（４）学習環境研究（学習環境部　各学年１名）
　①　児童の学習に効果的な掲示物等の環境を検討し、提案する。
　②　本校児童の実態を明らかにし、焦点化した研究になるよう提案する。
　③　学習環境の整備を行う。

３　研究内容

（１）自分の考えをもち、広げ深める児童の育成
　①　自分の考えを主体的にもたせるための指導・支援の工夫
　②　考える視点や例の提示の工夫
　③　考えを見つめ直し、交流によって練り上げる学習活動の工夫
　④　その他の指導の工夫
（２）「できた・わかった」と実感する状態や、考えをもった状態、広げ深めた状態を見取る目を養うこと
　①　授業研究会の実施

② 授業交流会の実施

（3）授業以外の児童の学習活動の見直し

① 授業内容と関連のある家庭学習方法の検討・実施

② 効果的な朝の学習や補充的学習の方法の検討・実施

③ 全校作文の方法の検討

4 本年度の成果（〇）と課題（□）

（1）自分の考えをもち、広げ深める児童の育成について

① 自分の考えを主体的にもたせるための指導・支援の工夫

〇 「題名の意味」を考えさせるとよい教材の識別や、文学教材における視点を分析することで、児童の思考を促進することができる。

〇 「比較と選択」で自分の考えをもたせることで、全員参加を保障できる。

〇 考えさせる内容に応じた問い方、教師の返し方・深め方を一層吟味することが大切である。

② 考える視点や例の提示の工夫

〇 前時までの学習を振り返る掲示物によって、思考を深めることができる。

〇 モデル（実物投影機、例示、見本）を示すことで、学習に取り組みやすい。

〇 キーワードを提示したまとめ等、児童の実態に応じたまとめを行うことで文章を考えることができる。

③ 考えを見つめ直し、交流によって練り上げる学習活動の工夫

□ 二年次に向けて、どのような話合いや交流の仕方が深い学びにつながるかを検討していく。

□ 目的に応じた交流の仕方を工夫する。

□ 学び合い、高め合う子どもの育成（国分寺中学区 学びの基礎作り）の具体化を図る。

→ここまでの成果を踏まえた、国語の授業づくりの視点 ※これらを普段から意識する。

1、その教材の特性（視点や構成）を研究し、「考えさせる内容」を考える。
2、子どもの技能（読む、書く、話す、聞く等）の発達段階（発達順序）と、児童の実態（レディネス）を考えて、「考えさせる内容」を決定する。
3、考えさせたい内容を、考えられるような「問い方」にこだわる。
4、技能や語彙量は繰り返すことで身に付くことを意識し、長期的な視点で育成する。

（2） 「できた・わかった」と実感する状態や、考えをもった状態、広げ深めた状態を見取る目を養うことについて

〇 授業研究会では、少人数グループでの話合いにより、一人一人が意見を言うことができる。

〇 先生の問いに対し、子どもの姿を見取ることができてきた。子どもがどんなところで学び、どんなところでつまずいているのかを考えることができる。

〇 以前よりも、子どもの姿を中心に話し合えていた。

□ 評価規準についての意識がやや低いのではないか。どういう意見が出ればよいのか、どういう子どもの学びの姿が見られればよいのかといった、具体的な状態を意識して、評価規準とのずれについて話せると、よりよいのではないか。

□ どうしても教師の指導法に先に目が行ってしまう。

→授業によって、参観する班をあらかじめ指定する授業研究も行うこととした（12 月に 1 回実施）

（3）授業以外の児童の学習活動の見直しについて

〇□ 全学年学級の宿題の内容、量等について調査を行った。今後どのようにしていくとより効果的かについての研究を継続して行う。また、学習に遅れのある児童を引き上げる手立てとして、取り出し朝学（パワーアップタイム）を行い、該当児童の学力向上に寄与できた。全校作文については深められなかったため、次年度の課題とする。

〇□ 学習環境のうち、特に掲示物について共通理解を図り、必要な資料を作成した。今後は、本校学校課題の達成に必要な環境について話し合い、環境を整えていく。